

サントリーの人材戦略④職場で一人一人の成長に寄り添う「TOO」とは

■「TOO」となるの・おせっかいなおじさん／おばさん」の宮地さんとは

先月号で紹介したサントリーの「TOO」の一人であるサントリーフーズ株式会社九州支社の宮地清人さんは、50代後半で役職勇退後にTOOに任命された時、TOOの専用ジャンパーと共に、「泣かない迷子を探すのがTOOの役割」との訓示を受けたそうです。サントリーに入社後、長年にわたって、全国幾つかの支社で、業績達成と人材育成に取り組み続けてきた宮地さんは、「振り返ると、いい人ばかりに巡り合ってきました。お取引先や先輩から学んだことを後輩に伝えていくのが私の役目です」と語り始めていただきました。

■宮地さんが目指す「職場づくり」とは

業績が問われる営業現場だからこそ、宮地さんは職場について「事務所に帰ると、不安や悩みが解消される場所になりたい」と思っていて行動しています。朝出社して、気になる後輩社員がいたら、そっと寄り添って、たとえ10分でも話を聴くようにしています。年齢も性格もスキルも異なるので、10人10とおりの寄り添い方が必要になってきます」と続けてもらいました。そのための自己研鑽にも宮地さんは前向きに取り組

んでいます。「全国13名のTOOが堂に会い、事例の共有に努める機会を設けています。13名は、すべての営業現場を明るくしたいとの同じ思いを持っているので私も刺激を頂戴しています。傾聴姿勢について、繰り返し訓練することが重要だと実感しています」と話す宮地さんには充実感が溢れています。

■「職場の見守り役」「お手本役」として

九州支社で宮地さんの上司でもあり、後輩にもあたる企画部長の小森谷謙さんは二元来、若手の気持ちに寄り添いながら



宮地清人さん(左)、小森谷謙さん(右)

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として『定年NEXT』『人生の頂点は定年後』がある。



一般社団法人定年後研究所
人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengolab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

業績も上げていくのが支社の理想です。いつも宮地さんの助言からは多くの気づきや改善のヒントを頂戴しています。同じ職場で、現業も持ちながら働く先輩だからこそ、自分も含めたマネージャー層にとって、宮地さんは『職場の見守り役』であると同時に、『間近で見えるお手本』のような存在です」と語っていただきました。宮地さんが話してくれた「後輩に伝えていく役目」が九州でも見事に果たされていることを感じつつ、愛情溢れる事務所をあとにしました。

当ページのバックナンバーは、上記サイト「お役立ち情報」をご覧ください。